

第 121 回 光応用・視覚技術委員会議事録

平成 21 年 7 月 3 日

光応用・視覚技術委員会

委員長 亀井宏行

I 日時：平成 21 年 4 月 3 日（金） 15：00～17：00

II 場所：日本交通協会第 1 会議室

III 出席者：亀井委員長、篠田、高橋、神藤、堀内各委員、木下幹事

IV 配布資料

No.121-01 第 120 回光応用・視覚技術委員会議事録案

No.121-02 第 78 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録

No.121-03 平成 20 年度研究会活動補助金の会計報告

No.121-04 第 2 回リソグラフィ極限技術調査専門委員会議事録

No.121-05 第 1 回赤外線・テラヘルツ波将来技術調査専門委員会議事録

No.121-06 光応用・視覚技術委員会平成 20、21 年度活動計画表

No.121-07 光応用・視覚技術委員会名簿

No.121-08 第 3 回電気学会次世代光源調査専門委員会

V 議事

1. 前回議事録確認

2. 委員、編修委員の交替について

白水委員、中瀬委員が退任し、欠員 4 名となるので、後任を考えて欲しい。編修委員は篠田委員から高橋委員に交替する旨、亀井委員長から報告された。

3. A 部門研究調査運営委員会報告

亀井委員長から配布資料 No.121-02 に基づき、第 78 回 A 部門研究調査運営委員会の報告がされた。

1) 新領域研究グループの設置について

テーラーメイド工学に関する特別研究グループの設置案が 3 月の理事会で承認されることになった。特別研究グループは理事会の承認のみで設置できるようになった。

2) 技術報告に関する引用転載許諾手続きの簡素化について

電気学会における自己の著作物については引用転載許諾の申請が免除されることになった。

3) 研究会活性化のための資料原稿ページ数削減について

原稿を最低 2 ページに半減することにより、参加が容易になり、発表者、参加者増が期待される。A 部門での意見が報告された。

各技術委員会で決めればよいか。電子投稿になるとページ下制限は無くなる。

A 賞には 2 ページを 1 論文と数えるのか。資料価格はページ数によるのか。

- 4) 共同利用・共同研究拠点に関する要望への対応について
長岡技術科学大学極限エネルギー密度工学研究センター、東北大学電気通信研究所から推薦の依頼があったが電気学会研究経営会議で審議の結果、回答を辞退することになった。
 - 5) 平成 20 年度 A 部門活動資金報告について
マグネティックス技術委員会（平成 19 年度、20 年度）、電磁界理論技術委員会、教育・研究技術委員会、平成 21 年度基礎・材料・共通部門大会実行委員会の申請状況が報告された。年度をまたぐ場合は中間報告書が必要。源泉徴収税率。表彰の場合は日付を記入。等注意点を確認した。
 - 6) 平成 20 年度 A 部門優秀論文発表賞について
優秀論文発表賞受賞者が報告された。来年度は当委員会から候補者を出せる。
 - 7) 技術委員会報告
パルス電磁エネルギー技術委員会活動報告が提出された。当委員会も報告することになっている。
 - 8) 技術報告書提出について
報告書を総括研究会開催、データベース公開により代えることができる。対応を運営委員会で審議する。
 - 9) 提出書類について
研究会年間計画、未提出の技術報告書、活動資金申請書・報告書、状況紹介資料の提出が A 部門研究調査運営委員会から要請されている(期限 5 月 8 日)。
3. 大会テーマ付きセッション募集について
テーマを募集していたが、「光応用」では不適切。A 部門セッションよりも研究会の方を選ぶので当委員会はセッションを出さない旨、亀井委員長から報告された。
 4. 報告書未発行の調査専門委員会について
各委員会の状況を報告した。
メディアデバイス・視覚システム委員会は依田委員から CD を提出していただく。
新しい高原とモデリング・計測委員会は神藤委員が 6 月に提出する。
安全・安心のための赤外線技術委員会は綱脇委員により 80% 完成している。
 5. 平成 20 年度研究会活動補助金の会計報告(配布資料 No.121-03)
会計報告を木下幹事が報告した。
 6. 調査専門委員会の活動報告
 - 1) 堀内委員から第 2 回リソグラフィ極限技術調査専門委員会の議事と講演 2 件の内容(配布資料 No.121-04) が報告された。
 - 2) 堀中委員から提出された第 1 回赤外線・テラヘルツ波将来技術調査専門委員会の議事の内容(配布資料 No.121-05) が報告された。
 - 3) 神藤委員から第 3 回電気学会次世代光源調査専門委員会の議事と研究報告 2 件の内容(配布資料 No.121-08) が報告された。
 7. 平成 21 年度の活動計画

配布資料 No.121-07 に基づき活動実績・計画を確認した。各調査専門委員会から活動計画表を亀井委員長へ提出するよう要請された。赤外線・テラヘルツ波将来技術調査専門委員には10月頃に研究会を開くように依頼する。研究会資料の著作権、学生の会費、A部門参加費が高いのが問題であるという意見があった。

8. 編修委員から報告

A部門レビュー論文が新設されること、A部門特集号を平成21年10月号は赤外線技術、22年度も当委員会関連を予定している旨、篠田委員から報告された。

9. 次回委員会について

日時：平成21年7月3日（金）15：00～17：00

場所：日本交通協会第1会議室

記録 木下